



きらきら Eye ランド

JA 庄内みどり

安全・安心をお届けいたします

グリーンプロジェクト情報 第8号

発行：庄内みどり農業協同組合
協力：酒田農業技術普及課作溝・中干しの徹底を！
圃場ごとに適期適量の穂肥を！！

6月28日現在の生育は、ばらつきは見られるものの、全般的に生育量は十分に確保されています。中干しが不十分な圃場が多く見受けられますので、状況に応じて暗渠排水などを利用しながら引き続き中干しを徹底し、適期に穂肥ができる稲姿に仕上げましょう。

また、これからは葉いもちや斑点米カメムシ類が発生する時期となります。農道・畦畔の草刈り、圃場内の雑草（ヒエ・ホタルイ等）の除去を徹底し、病虫害発生未然防止を心がけましょう。仙台管区気象台の1カ月予報（6月27日発表）では、平年よりも気温が高い見込みと予想されています。中干しの徹底、ケイ酸資材の施用など、今からできる高温対策を実施し猛暑に備えましょう。

◎現在の生育状況（6月28日現在の生育診断圃データ）（ ）内は平年対比

品 種	草 丈	茎 数	葉 齢	葉色 (SPAD)
は え ぬ き	46.1 cm (94)	619 本/㎡ (94)	9.1 (−0.3)	38.8 (−3.1)
つ や 姫	53.9 cm (111)	478 本/㎡ (95)	9.4 (+0.3)	38.8 (−4.2)
雪 若 丸	46.3 cm (109)	666 本/㎡ (92)	10.4 (+0.8)	39.6 (−6.8)

技、其の一 中干しの徹底を！

6月下旬の降雨の影響により、中干しが不十分な状態の圃場が多く見受けられます。**穂肥までに作溝の手直しを行い、暗渠排水を利用し、「小ヒビが入る程度の中干し」を確実に実施しましょう。**幼穂形成期から穂揃期にかけては水分と酸素を最も多く必要とします。中干し後は、走り水により徐々に慣らし、出穂前まで間断灌水（2日湛水状態、2日落水状態を、くりかえすこと）を続けましょう。

用水不足時の灌水を効率的に行うためにも、仕上げ作溝は早期に行いましょう。（特に高温・強風時における灌水を速やかに行うことができるため、稲体も保護されます）

※ 中干し後のKSK28の施用方法

ケイ酸資材（KSK28）の施用は高温対策に有効です。下記を参考に施用をしましょう。

①初期水位を1～2cm程度確保する。（水面はヒタヒタ状態にする）②水尻は閉じて30aに4.2kg1個（10分程度）を水口から流し込む。③流し込み後も入水を続け、水位8cm程度で止水。④流し込み後は3～5日程度止水し落水しない。

技、其の二 カメムシ対策はこまめな草刈りで！

病虫害防除所の発生予察情報（6月26日発表）では、斑点米カメムシ類の発生量は「**やが多い**」と予想されています。カメムシ類の増殖を抑えるため「こまめな草刈り（雑草が穂をつける前の草刈り）」と「圃場内の雑草（ヒエ、ホタルイ等）の除去」を徹底し、地域ぐるみで発生密度の低減を図ることが重要です。

☆葉いもちの発生に注意！！

今後の天候次第では葉いもちが発生する恐れがあります。葉色が濃いところや、昨年発生した圃場では注意深く観察し、発生が確認されたら最寄りの営農課へご相談ください。

技、其の三 出穂予想(6月28日現在)

☆今年の出穂期は、“平年より2～4日早い”と予想しています。

ふくひびき	ひとめぼれ	雪若丸	はえぬき	つや姫
7/27頃	7/31頃	7/31頃	7/31頃	8/6頃

技、其の四 穂肥は的確な生育診断で適期に適量を！

穂肥が適期にできる稲の条件は①葉色が低下している②葉伸びしていない③茎数がすっきりしていることです。（下表参考）

品 種	葉色	草丈 (cm)	茎 数 (本/㎡)	穂肥対応（N成分kg／10a）					
				-30日	-25日	-20日	-18日	-15日	-10日
は え ぬ き	4.8	60	630 以下		2.0		(1.0)		
はえぬき(低地力)				1.0～1.5		1.5～2.0			
ひとめぼれ	4.5	60 以下	630 以下			1.5			(1.0)
雪 若 丸	5.2	55 以下	670 以下		1.5				
つ や 姫	4.8	60	550 以下	1.5		みどり特栽培穂肥 028 号			
つや姫(高地力)					1.2	化成肥料 15-4-15, らくらく 522, みなくち NK-20, 庄内穂肥専用 545			
ふくひびき	5.0	68 以下			2.0				(2.0)

※（ ）内の数値は、状況に応じて実施する。

※葉色板（フジカラスケール）と葉緑素計（SPAD）の換算値（目安）

{(SPAD値) + 10} ÷ 10 = 葉色板の値 （例）(38+10) ÷ 10 = 4.8 ← 葉色板の値

技、其の五 葉色が濃い稲への対応！

はえぬき(11.0葉期) 出穂前25日の葉色	5.0以上⇒ N成分1.0kg/10aに減肥して施用する。ただし(4.0以上) 葉色5.5以上の場合、穂肥は行わない。(※ケイ酸資材を施用)
ひとめぼれ(11.5葉期) 出穂前20日の葉色	4.8以上⇒ 葉色低下を待って対応、ただし出穂前10日になっても(3.8以上) 葉色が濃ければ穂肥は行わない。(※ケイ酸資材を施用)
つ や 姫(10.5葉期) 出穂前30日の葉色	4.9～5.1⇒ N成分1.0kg/10aに減肥して施用する。(3.9～4.1) 5.2以上⇒ 25日前までに適正葉色まで低下しない場合、穂肥は(4.2以上) 行わない。(※ケイ酸資材を施用)

※猛暑を耐え抜くためにケイ酸資材の積極的な施用を！！

技、其の六 倒伏軽減対策！

生育が過剰となり倒伏が懸念される場合には、倒伏軽減剤を使用します。

○ひとめぼれ

稈長 8 2 cm 以上となり、倒伏が懸念される出穂 2 0 日前（1 1. 5 葉期）の稲姿

草 丈（cm）	葉 色	生育量（cm×本/㎡）	1 株当り本数（7 0 株植え）
6 2	5. 0	3 9, 0 0 0	3 0 本以上

◆使用薬剤

薬剤名	使用時期	使用量	備 考
ロミカ粒剤	出穂前 2 5 ～ 1 0 日	2 ～ 3 kg/10 a	上位節間伸長抑制
スマレクト粒剤	出穂前 2 0 ～ 7 日	2 ～ 3 kg/10 a	

※特別栽培米は、倒伏軽減剤及び倒伏軽減剤入り肥料は使用できませんのでご注意下さい。

※スマレクト粒剤の重複散布や多量散布は、後作物や次年度の作物に影響する場合がありますので使用量に注意しましょう。

※窒素肥料が使用できない圃場には、ケイ酸資材を使用しましょう。

< 直播情報 >

◎湛水直播（鉄コーティング直播）は中干しの時期に入りました。根張りを良くし、耐倒伏性を高めるため、中干し開始の目安となる 470～530 本/㎡を確認して、時期を逃さず実施して下さい。茎数不足の圃場では、つなぎ肥や浅水管理で引き続き茎数確保に努め、遅くとも 9 葉期までには中干しに入りましょう。（6/28 現在漆曽根実証圃 8. 9 葉）

< 大豆情報 >

◎降雨時は、こまめに圃場を見回り、早期に明渠の手直しなどを実施し、停滞水の排水に努めましょう。大豆の根を湿害から守るため、できるだけ速やかな排水対策を行いましょう。

◎天候に合わせ、**中耕(培土)**を遅れずに実施しましょう。（**雑草対策も！**）

◎食葉性害虫やアブラムシ類の発生が心配されます。高温・乾燥で発生が急増した過去の例もありますので、圃場・生育観察で早期発見・被害防止に努めましょう。

< 農薬飛散防止対策について >

残留農薬等のポジティブリスト制度に伴い、粉剤等で防除を実施する場合には、周辺の園芸作物の種類、収穫時期等を事前に把握し、農薬の飛散防止・低減対策を確実に行ないましょう。ドリフト（飛散）が原因で農産物が流通（出荷・販売）不可能になった場合、原因となった農薬散布者の責任となります。散布時には、風速・風向に注意して下さい。



しっかり育てよう！庄内みどりのつや姫・雪若丸

つや姫・雪若丸情報コーナー



しっかり中干しを行い、バッチリ穂肥のできる稲姿に仕上げよう！

●穂肥時期は、「雪若丸」は出穂の 25 日前、「つや姫」は有機質入り肥料で出穂の 30 日前です。遅れずに穂肥ができるように準備しましょう。

●葉色の濃いつや姫には、適期適量の穂肥施用ができません。茎数が多い・葉色が濃い圃場では、やや強めの中干しを継続しましょう。

園芸情報

梅雨入り・梅雨明け後の長ねぎ栽培管理について

6 月 23 日に東北地方の梅雨入りが宣言され、曇りや雨が続いております。現在のような天候・気温は病気が発生しやすいです。また、梅雨で根が弱っている状態で梅雨明け後の急な気温上昇が来ると、葉先枯れや軟腐病などの症状が出やすくなりますので、今からできる対策を行いましょう。

< 梅雨時期 >

○明渠や暗渠の確認などを行い、圃場の排水対策を徹底してネギが長時間水に浸かっている状態が無いようにしましょう。

○梅雨時期はべと病など病気の発生が多くなります。晴れ間を見て殺菌剤で防除を行いましょう。

< 梅雨明け後 >

○ねぎの生育に合わせて土削り、土寄せを行いましょう。土寄せ時は殺菌剤の散布を行い、軟腐病の発生を防ぎましょう。土寄せ時に追肥を行う際は、生育を見ながら窒素成分で 1 回あたり 2～3kg/10a を施用しましょう。

○雑草の発生が多くなりますので、小さいうちから除草を行いましょう。

※土寄せ作業は朝方や夕方などの涼しい時間帯に行いましょう。昨年のように梅雨明け後、高温少雨の天候が続く場合は、少量の土寄せを小まめに行いましょう。

○梅雨明け後の温度上昇で、葉先枯れが発生する可能性があります。似たような症状で葉枯病がありますので、症状を観察して適切に対応しましょう。（葉先枯れは根のストレスにより発生します。葉枯病は細菌によって感染し、症状が進むと黒い楕円形の病斑が発生します。）

○高温時は害虫の発生が増加しますので、適期防除を行いましょう。例年、ネギアザミウマ、ネギハモグリバエの他、シロイチモジヨトウの発生が多くなりますので注意しましょう。

☆7 月に入り、生育の早い所では今月中に収穫が始まる時期となります。仕上げの止め土をしっかりと行い、軟白長（夏ねぎは 25 cm～）の確保を目指しましょう。

注意！毎年ドリフト（飛散）被害の相談があります。ドリフトが原因で農産物の流通（出荷・販売）が不可能になった場合、原因となった農薬散布者の責任となります。畦畔及び転作田の除草剤（茎葉処理液剤）を散布する際は周辺作物に十分注意し、風のない日と時間帯を選び、ドリフト低減ノズルと飛散防止カバーを必ず使用しましょう。

★次号の発行は7月19日です！